

# 和泉まちづくり NEWS

「協議の場」推進のための情報紙／地域福祉推進コーディネーター業務

<発行責任者> 地域福祉推進コーディネーター・田代（特定非営利活動法人ワークズコープ）  
<問い合わせ先> 0725-43-7513 / 和泉市社会福祉協議会 発行日：2023年3月15日



## 「協議の場」からよりよいまちを創りだす

### 幸せに・豊かに暮らしたい

誰もが地域でその人らしく、豊かに暮らしたいと願っています。でも「何かあったら誰が助けてくれるの?」「買い物も病院も行きにくい」・・・など、不安なことが山ほどあります。地域の暮らしを支える制度やしきみはあっても、いつでも（24時間365日）そのサービスを受けられるわけではありません。



### 地域の課題を話し合う場（協議の場）

そこで大事なのが、ご近所・地域や自治会など地域コミュニティの繋がりや助け合いです。

和泉市では「地域の課題を定期的に話し合う」ために、小学校区ごとに「協議の場」を立ち上げて、暮らしや安心・安全、生きがいなどに関わる様々な話し合いが行われています。この「協議の場」をよりよいものにし、活動の活発化をはかるため、和泉市社会福祉協議会とともに、「地域福祉推進コーディネーター」がそのお手伝いをする事になりました。

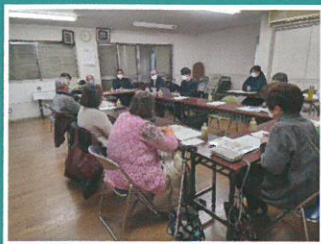
この「協議の場ニュース」では、各地域の「協議の場」の活動の紹介や交流、有益な情報の提供などを通して、「いのちと暮らしを守り、にぎわいのあるまちづくり」をめざします。



## 「協議の場」をちょっとのぞいてみよう

地域のみなさんが主役になって、住みよい地域を残すために、ざっくばらんに話し合います。

- ① 「ふくし」の課題や、やってみたいことを出しましょう



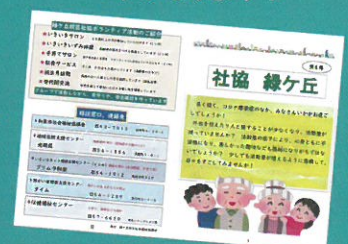
あれもこれもきになるなあ

- ② 解決策を探りましょう



地域と専門職と一緒に

- ③ できることから、やってみよう!



広報誌作成など

の活動もあるし、「協議の場」もあるのでそれらの関係性の構築にも繋げていきたいですね。とにかく話し合いの場を増やしたい。

そして「魅力的なまちづくりを」目指したいです。地域に住む人たちから見て「魅力あるまち」にするのも大事だけれども、外の人たちからみて魅力的に思ってもらい、特に若い人たちに来てもらえるまちづくりを目指したいです。

また「人づくり」「担い手づくり」だけでなく、それぞれの役割分担が必要であると感じています。過去に自主防災組織を組織した経験も活かし、世代交代しても円滑に活動できるようなまちづくりや自治会組織を実現したいです。



大阪経済法科大学・金谷一郎客員教授を招いた幸校区・協議の場（2022年12月14日）



大阪経済法科大学客員教授  
金谷一郎先生

金谷一郎先生は、『愛すべきまちづくり ～様々な住民の声を集めて活動につなげよう～』のテーマでお話しいただきました。地域のなかに、濃厚な人間関係を望まない人たちが増え、まちづくり・自治会活動にしんどさが生まれています。そこで金谷先生は、「ゆる・ふわ」な関係づくりを提唱。「それならなんとかなる・・・」と展望が見えてきています。（幸校区・協議の場）

## 「どんな人でも暖かく包み込む」地域をめざして

### —和気校区・「協議の場」での子どもたちとの交流

和気校区では昨年、「協議の場」をどうすすめるかを話しあってきました。そのなかで、地域には障がいのある子どもたちの療育のサービス（放課後等デイサービス）の事業所（こどもデイサービス「スマイル」）があることに注目。地域に住む人たちが、障がいのある子どもたちとの交流をはかり、その育ちを地域で応援しようという声があがりました。

そこで「協議の場」に「スマイル」代表の和田広美さん（児童発達支援管理責任者）を招き、「障がいのある子ども達に対する理解と支援」についてお話しいただき、子どもたちの為に何ができるか一緒に考えるなかで、まずは現地で見学・交流会を実施することになりました。

そして2月4日、「スマイル」の子どもたちと、地域の有志の方々との交流会が実施されました。



こどもデイサービス「スマイル」にて、  
子どもたちと地域の皆さんとの交流（2/4 節分イベント）

この日は「スマイル」の節分イベントの日。フェルトや色画用紙で「恵方巻」をつくってみたり、丸めた新聞紙を豆に見立て、的当てゲームで点数を競うなど、職員・地域の方々と一緒に、様々なレクリエーションで楽しみました。子どもたちの様子は終始にぎやかでわんぱく、和やかな雰囲気に包まれました。

今回は、限られたの方々との交流でしたが、今後、順次活動を広げ、どんな人でも温かく包み込む地域をつくろうと、話しあわれています。

猪尾 巧 緑ヶ丘校区社会福祉協議会 会長に聞く

## 安心して暮らせるまちをめざして自分たちで地域福祉計画づくりを



猪尾 巧 会長

緑ヶ丘校区では「認知症になっても安心して暮らせる地域」をめざし、認知症ケアパス（認知症ケアのガイドブック）づくり、認知症サポーター養成講座などを行ってきました。現在は講座やイベントだけではなく、一人ひとりの住民が支えあうことが大切だと考え、その取り組みを行っています。

緑ヶ丘小学校ではキッズ認知症サポーター養成講座を継続的に実施して頂き、子供たちが学んだ事を実際に地域福祉に活かすことを大切にしています。最近「福祉体験授業」を地域で行っているサロンや配食サービスに児童が参加して、地域との交流も行っています。

防災活動では国や市は、高齢者や障がい者など避難行動に課題がある方々に対する「支援チームづくり」を進めています。緑ヶ丘校区では「支援チーム作り」のモデルケースに手をあげ取り組んでいます。自治会、民生児童委員、校区社協が連携して避難行動要支援者登録への家庭訪問を行い、支援計画を進めています。

私たちは「第4次地域福祉計画」に基づいて活動していますが、来年度はその最終年度です。この4年間を振り返り、自分たちの手で次の「第5次地域福祉活動計画」を市社協の援助の下、進めたい。そして乳幼児、障がい者、高齢者などの多様な人が集える「地域福祉の拠点づくり」を実現していきたいです。



緑ヶ丘認知症サポーター養成講座（2月9日）

松下洋司 幸校区社会福祉協議会 会長に聞く

## 自治会・地域活動のあり方を立て直したい

- みんなで民主的に話し合う場をつくること



松下 洋司 会長

自治会のあり方を立て直したい、そう思いますね。そうでないと何も進んでいかないんですよ。地域には団地の協議会や、市営住宅に関わる役所、様々な地域団体がありますが、これらが連携することが大切。つまり地域や地域自治会では、みんなで話し合っ、民主的に決めることが大事ですが、こういう場が少ないです。

だから昨年、住民代表、青年団、民生委員など多様なメンバーを集めて、「自治会（長）会議（仮称）」を組織化し、話し合いの場の基礎をつくっている最中です。まだ具体的な活動段階には至ってはいませんが、課題があろうがなかろうが、みんなで集まり、意見を言う機会をつくっているんです。まずはこの話し合いの場を定例化していくことを目指していきたい。地域活性化のための「富秋まちづくり委員会」

「地域福祉推進コーディネーター」がお手伝いしている地域の校区会長などの方々から、まちづくりへの想いなどを聞きました。

信太校区・協議の場

INTERVIEW

名倉克巳 信太校区社会福祉協議会 会長へのインタビュー

## 「見守り活動」の大切さと みんなで学びあう場をつくること



名倉 克巳 会長

最初お会いしたときに、  
協議の場は学ぶ場だとおっしゃいましたね

人間、色々見聞きして、自分を高めていくことが大事だと思っています。世の中の様子などをしっかり見定めることができるようにならなといけなからです。自分を高めていくこと、そしてそういう人を社会全体に広げていくことが大事です。

信太校区協議の場では、見守り活動に力を入れようとしています。それはたくさんある地域の問題のなかで、集約された課題が「見守り」だと思うからです。そしてその活動は、一部の人たちだけではできない。みんなで支え合うということがないといけないのです。一人ひとりのボランティアでも、それぞれ自分の生活もあるし、活動に集中できないことがある。だからこそ、「みんなで」少しずつ持ち寄っていくことが大事だと思います。

### 信太校区では「見守り活動」の取り組みが進んでいます

「協議の場」で見守り活動のイメージ図をまとめてくれましたが、これが地域みんなで徹底できればいいと思います。これをもとに、地域みんなで見守り活動ができればいいですね。今、担い手の仲間がどんどん高齢化しています。昨日も会議が終わったあと、あるボランティアの方が「私も年をとってきて、今度は自分が支えてもらう立場になってきた」と言っていました。だからこれからは、若い人たちに活動をつないでいかなければいけない。

ところが、そういう若い方の参加がなかなかつられていない状況があります。世代をこえて、活動や取り組みを継続させていくことが大事です。

